

● 本日は永眠者記念礼拝です。伊丹教会の75年の歴史をそれぞれに担い、共に祈り、祈られ、歩んでこられた先達を覚えて、そのお一人お一人の命の尊さに想いをはせると共に、そこに与えられた「神の恵み」に感謝する礼拝となればと願っています。

● 今日の聖書には神を信じるユダヤ民族の先祖であり、信仰の父と呼ばれているアブラハムについて語られています。18節、「彼は希望するすべもなかったときに、なおも望みを抱いて、信じた」という言葉があります。アブラハムは75歳から神さまの言葉を信じ、歩み出したのです。「子孫を空の星、海の砂のように増やす」と神さまは約束されましたが、実際は、彼も妻も年老いており、そんな望みなど全くないような状況でした。

ただアブラハムは「神は約束したことを実現させる力も、お持ちの方だと、確信していた」と記されています。ここに信仰者の生き様があり、無から有を生み出される神さまの「恵み」を証する人生があるのです。

● 本日は「 $0+0=\infty$ 」という不思議な題をつけました。これが「神の恵み」の方程式だと感じています。教会では一人一人の力が合わさり、様々な働きをなしていますし、また一般社会でも「 $1+1$ が2にも3にもなる」ということがあるかもしれません。しかし、教会の歴史の中で先達が常に感動と喜びを持って受け止めてきた一番大切な事柄は、何も持たない私たちが、それでもなお、神に希望を置き、共に祈り合い、励まし合って生きていこうとする時に、人間の力を超えた「神の恵み」が与えられるのだということです。

● 私は牧師をして20年余になりますが、神戸大学病院前の教会で扉を開いていた時に駆け込んでこられる人々や、アメリカで路上生活をしている方々、災害の被災者など様々な出会いの中で、万策尽きて自らの無力さに打ちのめされる時が何度もありました。

しかし、不思議と共に祈るしかできないその中であっても不思議な導きや、「イエス様が共にいてくださる」と感じる温かな関係が備えられてきました。

● 教会に繋がり、先に天に召されたお一人お一人もまた、伊丹教会の歴史の中で、そのような神の恵みに触れ、神さまの言葉の持つ無限の可能性を信じて歩まれたことを心に留めたいのです。今を生きる私たちも先達の歩みにならい、無力さを覚える時に祈りによって備えられる「天からの恵み」をご一緒に証し、共に神を賛美していきたい。そう願います。